

ドイツ ビーレフェルト

Therapeutisches Reiten Bethel（乗馬療育センター）

Die v. Bodelschwingschen Stiftungen Bethel に所属する乗馬療育センター。Bethel ではてんかんや知的障害、精神疾患を持つ人や社会活動に困難を持つ若者、ホームレスの人々が生活している。

Therapeutisches Reiten は Bethel の敷地内に位置し、Bethel の小児病院やグループホーム、学校などの様々な施設から毎週約 120 人程の利用者が来ている。教育・心理的視点での乗馬療育、理学療法士が提供する乗馬療法（ヒポセラピー）、スポーツ的視点での乗馬療育が行われている。



施設外観

奥が馬の厩舎と事務所、右手が屋内馬場
他にもセラピー馬用の厩舎と屋外馬場がある。



待合室

家族や子供たち用の待合室。キッチンも備えられ、
座りながらも屋内馬場の様子が見えるように
大きな窓がついている



車椅子用のリフト

待合室や乗馬台へとつながっている。



センサーリートレイル

馬に乗りながら、様々な感覚（触覚・嗅覚・聴覚、視覚・固有受容覚など）に刺激が入るように作られた道。地面の素材が違ったり所々に花が咲いていたり、木のトンネルが設置してある。
定期的にスタッフや利用者さんが話し合っ、道の配置を変えている。



↑馬の餌作りの様子
決まった量を頭数分作っている。

Therapeutisches Reiten 障がいを持った若者 8 人 (ワーキンググループ) が働いている。馬の世話や厩舎の清掃、餌作りなどを担当し、敷地内は常に清潔に保たれている。



↑ワーキンググループ専用の休憩室
ランチタイムなど談笑しながら休憩。



↑セラピー馬を施設へ連れていく様子

セラピー馬を連れていき、他の施設を訪問することも。経管栄養などのケアが必要な人や障がい重度で乗馬療育を受けることが難しい人も、馬との触れ合いを楽しむことができる。馬にブラッシングをしたり、馬と一緒に敷地内を散歩する。



←ヒポセラピスト
(理学療法士)
Renate さん

ヒポセラピストになるには理学療法士として 2 年の経験と乗馬ライセンス専用の講習と試験を受ける必要がある。



お世話になった
Therapeutisches Reiten の Dirk Baum さん (中央)
と奥さんの Sabina Baum さん (右)

ドイツ ミュンスター

Vinzenwerk Handorf e.V. (グループホームでの乗馬療育)

Vinzenwerk Handorf e.V.では、社会的養護を必要とする子供や青少年がいくつかのグループホームで生活している。

敷地内には厩舎や屋内馬場、馬場が設備され、施設の子供・青少年たちを中心に心理・教育的な視点で乗馬療育を提供している。



施設内の様子

Vinzenwerk Handorf e.V.では 140 人近くの子供たちがグループを作って生活している。

敷地内には子供たちが生活する家や遊具等がいくつかある。



セラピー馬たち



屋外馬場



子ども達の体格に合わせて、大きさの違う馬が 8 頭いる。

馬のお世話や使用する道具の片付け等は子供たちが一緒に行うことがあるため、全ての道具に対して写真で分かりやすく表示。

プログラムは 1 対 1、グループでのセッションがあり、1 日に 10~20 人ほどの子供たちが乗馬療育を利用している。